



2019年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月15日

上場会社名 株式会社キャンドウ 上場取引所 東  
 コード番号 2698 URL <https://www.cando-web.co.jp>  
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）城戸 一弥  
 問合せ先責任者（役職名）取締役 管理担当・人事担当（氏名）森田 徹 TEL 03-5331-5124  
 四半期報告書提出予定日 2019年10月15日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有・無  
 四半期決算説明会開催の有無：有・無

（百万円未満切捨て）

1. 2019年11月期第3四半期の連結業績（2018年12月1日～2019年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年11月期第3四半期	53,326	0.7	1,053	△29.7	1,137	△28.9	474	△43.7
2018年11月期第3四半期	52,943	2.5	1,499	△6.7	1,599	△9.2	843	△5.4

（注）包括利益 2019年11月期第3四半期 493百万円（△45.5%） 2018年11月期第3四半期 906百万円（△6.2%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年11月期第3四半期	29.82	29.75
2018年11月期第3四半期	52.98	52.85

（2）連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2019年11月期第3四半期	27,534		12,625		45.6	
2018年11月期	25,952		12,385		47.5	

（参考）自己資本 2019年11月期第3四半期 12,556百万円 2018年11月期 12,325百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年11月期	-	8.50	-	8.50	17.00
2019年11月期	-	8.50	-	-	-
2019年11月期（予想）	-	-	-	8.50	17.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 有・無

3. 2019年11月期の連結業績予想（2018年12月1日～2019年11月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	71,400	0.9	1,230	△33.5	1,340	△32.3	320	△59.9	20.11

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有・無

連結業績予想の修正については、本日（2019年10月15日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有・  無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：  有・ 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有・  無  
 ② ①以外の会計方針の変更： 有・  無  
 ③ 会計上の見積りの変更： 有・  無  
 ④ 修正再表示： 有・  無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年11月期 3 Q	16,770,200株	2018年11月期	16,770,200株
② 期末自己株式数	2019年11月期 3 Q	852,675株	2018年11月期	857,300株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年11月期 3 Q	15,915,590株	2018年11月期 3 Q	15,912,900株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2018年12月1日から2019年8月31日)におけるわが国経済は、輸出や生産の弱さがみられるものの、各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復基調で推移しておりますが、通商問題の緊張の増大が世界経済に与える影響、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響等により、不透明な状況が続いております。

小売業界におきましては、EC市場の拡大傾向が続くものの、人手不足の深刻化による人件費や物流費の上昇、原材料価格の高騰のなか、記録的な低気温、長雨の影響により消費マインドが低下するなど、引き続き減速傾向が続く状況で推移いたしました。

こうした経営環境のなか、当社グループは、2018年11月期からの3ヶ年について定めた中期計画『Next3』を推進しております。2年目となります当連結会計年度におきましては、前期より全社方針として定めております「選ばれる独自性の確立」のための差別化戦略を推進するとともに、当期の事業方針を「出店の加速と生産性の更なる追求」と定め、出店、商品、販売の全般にわたる計画の実行と企業文化の変革に取り組んでまいりました。

店舗開発戦略では、当期事業方針「出店の加速と生産性の更なる追求」に伴い、個別案件ごとの最適な取引形態の提案により差別化を図り、話題の商業施設・駅ビル等への出店の実現に努めてまいりました。

また、賃料コストが上昇する中で引き続き、ストアデザインと施工の改良による出店投資の単価低減に継続して取り組み、不採算店舗の退店と併せて、生産性の向上を図ってまいりました。

新規出店実績は68店舗(直営店46店舗、FC店22店舗)、退店が42店舗となり、26店舗の純増となりました。

これにより、当第3四半期連結会計期間末における店舗数は1,034店舗(直営店717店舗、FC店309店舗、海外FC店8店舗)となりました。

商品戦略では、中期計画の全社方針「選ばれる独自性の確立」の核となるべく、引き続き商品のオリジナリティの更なる追求を推進してまいりました。

また、差別化戦略をより実効的なものにするために、SNSを通じた情報発信と情報分析を元にした話題商品の発掘や、有名プロガーや動画クリエイターとのコラボレーション企画を行うなど、当社の強みを生かした施策と当社プライベートブランドである「Do! STARS」商品の開発を継続して実施するとともに、物流や環境問題を中心としたコスト上昇に対応するため、お取引先様との連携により商品のクオリティの維持に努めてまいりました。これにより売上高に対する原価率は前年同期と同水準となりました。

販売戦略では、お客様目線での売場作りの質の向上を図るとともに、当社独自キャラクター「はっ犬ワンドウ」の店舗での撮影会の実施、参加型のイベントとして開催している「ワークショップ」の内容の充実、接客教育の見直しによる「新しい・楽しい売場」をコンセプトにソフト面の充実と合わせて主要店舗の戦略的なリニューアルを実施いたしました。

更に、本社主導での商品発注支援や、SNSと連動した陳列など、商品戦略との連動を意識した施策を実行し、中長期的な視点での差別化に取り組んでまいりました。

また、店舗における4S(整理・整頓・清掃・清潔)、在庫管理の徹底によるムダ取り、商品発注から受け入れ、陳列にいたるまでの店舗内物流構築などのインフラ整備を継続して実施し、店舗でのムリ、ムダ、ムラを省き生産性の向上を図りましたが、直営既存店売上高につきましては前年同期比で、98.9%となり、売上高が計画を下回ったことにより人件費率が0.2%上昇いたしました。

また、システム再構築関連費用等の増加等により、販売費及び一般管理費合計の売上高比率は前期比で0.9ポイント増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高533億26百万円(前年同期比100.7%)、営業利益10億53百万円(前年同期比70.3%)、経常利益11億37百万円(前年同期比71.1%)、親会社株主に帰属する四半期純利益4億74百万円(前年同期比56.3%)となりました。

各事業の業績は、直営店売上高471億14百万円(構成比率88.3%、前年同期比100.3%)、FC店への卸売上高55億35百万円(構成比率10.4%、前年同期比103.3%)、その他売上高6億77百万円(構成比率1.3%、前年同期比108.7%)となりました。

なお、セグメントの実績については、当社グループは単一セグメントのため記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は275億34百万円であり、前連結会計年度末に比べ15億82百万円増加いたしました。その主な要因は、「未収入金」が6億50百万円、「有形固定資産」が5億26百万円増加したこと等が挙げられます。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は149億9百万円であり、前連結会計年度末に比べ13億41百万円増加いたしました。その主な要因は、「電子記録債務」が16億92百万円増加、「未払法人税等」が2億48百万円減少したこと等が挙げられます。

③ 純資産

純資産合計は126億25百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億40百万円増加し、自己資本比率は45.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年11月期の業績予想につきましては、2019年1月15日に発表いたしました数値から変更しております。

詳細につきましては、本日(2019年10月15日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,299	4,157
売掛金	523	540
商品	5,650	6,037
未収入金	1,767	2,418
その他	602	647
貸倒引当金	△18	△23
流動資産合計	12,825	13,777
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,400	4,897
その他(純額)	1,327	1,356
有形固定資産合計	5,727	6,253
無形固定資産	633	692
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,267	5,410
その他	1,539	1,416
貸倒引当金	△14	△15
投資損失引当金	△26	-
投資その他の資産合計	6,765	6,811
固定資産合計	13,127	13,757
資産合計	25,952	27,534
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,887	3,745
電子記録債務	4,208	5,901
未払法人税等	449	200
賞与引当金	-	101
資産除去債務	26	20
その他	1,697	1,478
流動負債合計	10,268	11,447
固定負債		
退職給付に係る負債	1,531	1,605
資産除去債務	1,095	1,195
負ののれん	323	295
その他	347	364
固定負債合計	3,298	3,461
負債合計	13,567	14,909

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,028	3,028
資本剰余金	3,065	3,066
利益剰余金	7,480	7,684
自己株式	△1,228	△1,221
株主資本合計	12,345	12,557
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△5	2
退職給付に係る調整累計額	△14	△3
その他の包括利益累計額合計	△20	△0
新株予約権	59	69
純資産合計	12,385	12,625
負債純資産合計	25,952	27,534

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)
売上高	52,943	53,326
売上原価	32,488	32,725
売上総利益	20,455	20,601
販売費及び一般管理費	18,955	19,547
営業利益	1,499	1,053
営業外収益		
受取事務手数料	25	22
負ののれん償却額	28	28
その他	56	44
営業外収益合計	110	95
営業外費用		
為替差損	1	3
雑損失	5	2
その他	3	6
営業外費用合計	11	12
経常利益	1,599	1,137
特別利益		
受取補償金	60	25
投資有価証券売却益	—	59
投資損失引当金戻入額	—	26
特別利益合計	60	110
特別損失		
固定資産除却損	80	105
減損損失	117	200
その他	5	—
特別損失合計	204	305
税金等調整前四半期純利益	1,455	941
法人税等	612	466
四半期純利益	843	474
親会社株主に帰属する四半期純利益	843	474



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)
四半期純利益	843	474
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	16	8
為替換算調整勘定	49	—
退職給付に係る調整額	△2	11
その他の包括利益合計	63	19
四半期包括利益	906	493
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	906	493
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

**【セグメント情報】**

当社グループは、日用雑貨及び加工食品の小売店舗チェーン展開を主たる目的とした単一事業であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。